

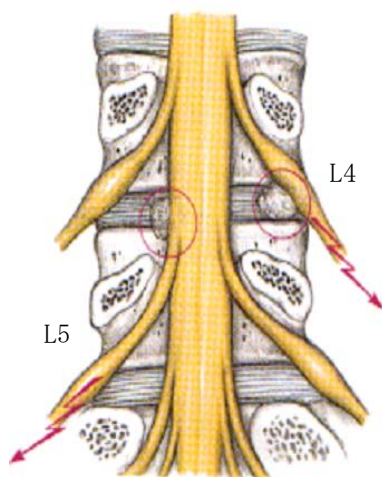
胸椎・腰椎の病気

腰の場合ですね，椎間板ヘルニアや黄色靭帯骨化症，いろんな病気があります。ぎっくり腰をドイツ語では，**Hexenschuss** と言うんですね。**Hexe** とは魔女ですね。魔女の一撃がぎっくり腰ということです。



脱出椎間板と神経根の位置

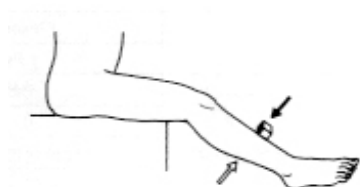
先ほど言いましたように，ヘルニアが飛び出したときに，同じヘルニアでも（L4/5レベルの場合は）外側に飛び出すと4番，内側に飛び出すと5番の神経を圧迫されます。どこがしびれているかによって，どの神経がやられているかというのがわかります。



L4領域のしびれ



L5領域のしびれ



大腿四頭筋 (L2-4)



前頸骨筋 (L4, 5)

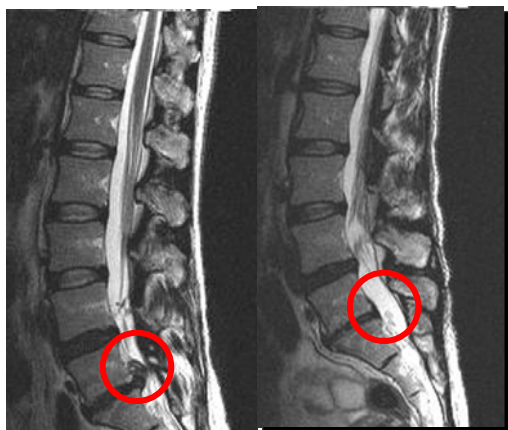


長趾伸筋 (L5)

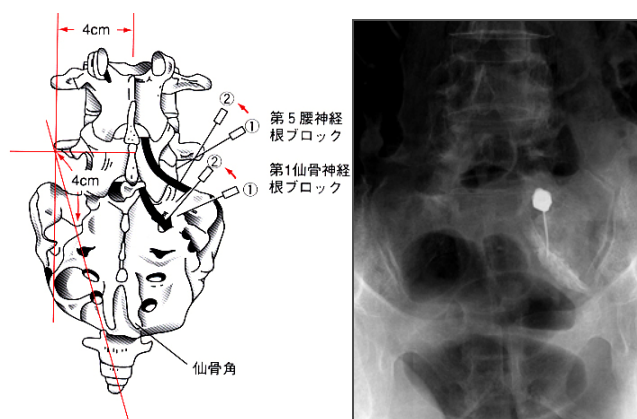
症例①：脱出椎間板の自然消滅

ヘルニアを全部手術しなくちゃいけないかというと、8割くらいは自然に治るんです。神経症状がそれほど強くなければ痛み止めでもって様子を見てくださいます

このMRIは40代女性のケースですが、発症したときはこんなヘルニアがありますけど（下左図）、1年後に撮影するとヘルニアはなくなっています（下右図）。



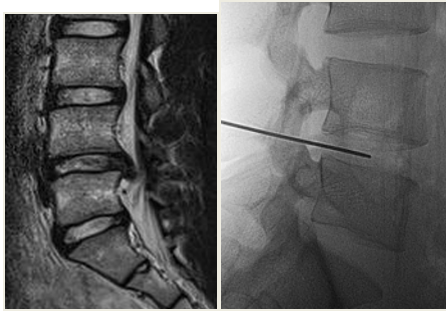
痛みが強い場合は神経根ブロックをします（下図）。



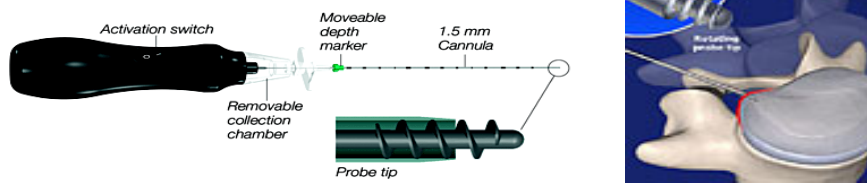
S 1 神経根ブロック

症例②：腰椎椎間板ヘルニア（経皮的髓核摘出術）

最近経皮的髓核摘出術という、簡単なヘルニアの手術ができるようになってきました。これはデコンプレッサーといって、モーターを回すとアルキメデスのポンプの原理で椎間板を吸いだしてきます。局所麻酔で、30分くらいで終わってしまいます。直接飛び出した椎間板を摘出するわけではないので、効果には限界があります。全ての方がこの方法で治ると言うわけではありません。



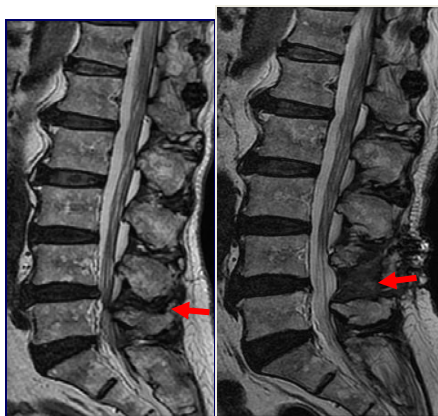
術中のレントゲン写真



経皮的髓核摘出術 (Dekompressor)

症例③：腰部脊柱狭窄症

脊柱が狭くなっているために、間欠性歩行といって、歩いているうちに脚がしびれてくるという場合には、顕微鏡を使って、削ってあげる（神経を楽にしてあげる）手術をやります。



術前

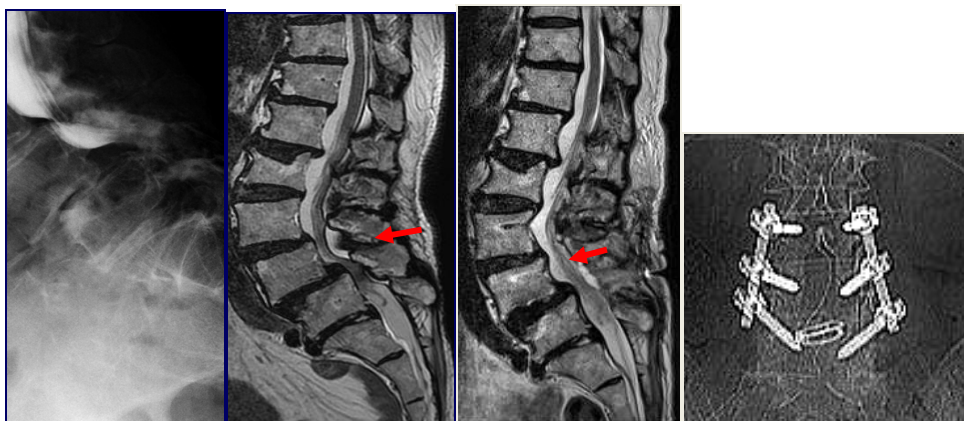
術後

症例④：腰椎すべり症

次は固定術ですね。腰の骨がずれてしまっている場合です。

この方はエホバの証人の方でどこの病院でも、輸血ができないといって手術をしてくれなかった。実際の手術では、80ccくらいの出血で全く問題なかったのですが。

この方は神経が圧迫されていて歩くことができない、家に座ったきりの生活でした。退院された後からは、もう元気に外出されています。



術前

術後

症例⑤：腰椎分離症

骨が折れてしまったケースです。分離といいますが、折れてしまった場合にもこのような骨をとめる手術をしたりしています。

